

一学期の遊びから



長谷川美代子

一学期といえは幼児が家庭生活からはなれて、社会生活に入る
第一歩と考えられます。子どもひとりひとりの自然の状態、つま
り生まれつき、家庭環境・社会環境など、十分に留意しながら、
日々の指導目標をたてなければなりません。すなわち子どもの経
験や、活動は種々さまざまです。

新入児を対象とした場合、ほとんどがはじめての友だちに接
し、友だちあそびが少しずつすすんでいくので、この面での誘導
が大切に行なわれねばなりません。なお、大切なことは私どもと
の接触、親しみ、あるいは集団生活や園のきまり、いろいろの行
事への参加の仕方など、指導上の問題はたくさんにあります。こ
れにともなって、私たち教師は新入児の生活の基礎となる目標
を、誤らずしっかりとつかんでいかなければなりません。

ん。

これを子どもの側から見たり、考えたりした場合、「幼稚園は
どんなところ？」と、聞いた時、倉橋先生がおっしゃっておられ
るように、「幼稚園は大好きなところよ」「おもしろいところよ」
「おもちゃやブランコなどたくさんあるところよ」「いい先生や
お友だちが、たくさんいるよ」などの答がえられてこそ、本当の
幼稚園の姿ではないでしょうか。

入園の初めは、ほんとうに楽しい楽しい所であるという気持を
もたせることに、根本の目的をおいて出発しなければなりません。
もちろん一学期だけのものではないが、特に本学期に必要で
あります。これでこそ子どもに安定感を与え、緊張感をほぐして
やることができると思います。

ところが子どもの生活の実状は、千差万別で、たとえば、旧園児に負けず劣らず、すべり台などでむちゅうでおもしろくあそんでいる姿も見られるかと思うと、母や祖母の手を一生懸命つかまえて、はなれそうもない子、あるいは、門まで来て帰りもせず入りもせずなんだか不安と警戒でだまっている子、誘ったり言葉をかけると、かえって泣き出す子、無言で旧園児のあとを追ってついていく子、友だちとよくあそんでいると思つてそつとそばから見ていると、ふと泣きだし何やら原因なく手こずらす子などいて、これらは入園当初ならでは見られない情景です。

このような姿を見る時、これらのひとりひとりの原因をよく見きわめ、そしてひとりの子どもの真にふれ合つて、信頼し信頼されるように誘導することが大切で、それは決して軽々しいものであつてはなりません。どこまでも教育の大なるむずかしさと重大さを感じながら、ひとりひとりに適応していくための責任を覚悟して、一生懸命努めなければなりません。

このように子どもの成長は一日たりとも止まることなく、昨日は今日に、今日はまた明日につづいて、五月ともなれば一層に旺盛となってくるわけで、子どもはこのやとなじみかけて来たひとりひとりの子どものために、十分に注意しながら教師としての適当な指導目標をたて、大いに期待と責任とで努力し、六月ともな

れば青葉しげる下、美しい庭、色とりどりの花の中で、あの道具この玩具を中にして、友だち同士や私どもとの親しい楽しいふれあいで不安も緊張もないただ真の樂園にする、これを最初の目標としてむちゅうで過ごすわけです。

このような考えから、ややまとまったあそびで、最も子どもが喜んだものの一例をとり上げてみました。

たねまきあそび

人数　農夫になる子ども（数人）と、たねになる子ども（多数）にわたる（人数は何人でもよい）

体形　かごめの形で、中にたねになる子どもがしゃがみ、農

夫になる子どもは外に立つ。またたねになる子、農夫になる子とに分かれて自由の位置についてもよい。

あそびかた　たねの子どもが、しゃがんでいるところへ、農

夫になった子どもが歌に合わせて（別記）ひとりひとりの子どもに対して、たねをまき水をあたえる形をする。

しばらくして、たねの子どもは、地上のつもりで頭上へ手を高くさしあげて、だんだんのびていく形をする。

農夫はできた大根人参（注）○季節にあったもの。野菜、

種の唄



1. 人 参 大 根 か ぶ ら 人 参 大 根 か ぶ ら
 2. お み ず を か ぎ あ ら ぎ お ひ 大 さ ま に こ に こ



ひゃ く しよ は ま き ま す ち い さ な た ね を
 の び ま す の き ま す 人 参 大 根 た か ぶ ら

果物、花、等。○子ども
 もの自発的創作くふう
 でえらんだもの。○子
 どもの経験内のもの)
 などを収穫するつも
 りで、子どもひとりひ
 とりをだっこして、倉
 に入れにくい形をし
 て、子どもを順次全部
 を運びおわる。
 次に農夫が休んでい
 る間に、大根たちは、
 「大水だー」(注 大火
 事だ、雷だ、大雨だ)
 等といって各自、自由
 な所へ逃げてしまう。
 農夫たちは驚いた形で
 追っかけ、にげまわる
 子どもの全部をつかま
 えてくる。(鬼ごっこ)

の形で)

子どもたちは、伸びる時のたのしき、だっこされる時の期
 待、抜かれまいとする一生懸命な努力、追っかけられる喜
 び、あつまったりちらばったり、また、あつまったりちらば
 ったり、そこに興味を感じてくりかえしくりかえし、楽しん
 であそびます。

実施後の感想

このあそびは、難しいルールがなく、動作や歌が簡単で親しみ
 やすく、しかも変化にとみ、性別、年齢、経験の有無、組、人
 員、場所、などにとらわれず、誰でも、難なく参加でき、子ども
 同士、また、教師と子どものふれ合いが無理なくできて親しみを
 増すことができる。また各領域(健康、社会、自然、言語、音楽
 リズム、絵画製作、の六領域)とも関連して、総合的な教育価
 値のあるあそびであると思われれます。このあそびは、とおり一べ
 んのあそびせ方で終わるのでなく、くりかえしあそんでいるうち
 に、季節、その時、その場に応じた子どもの自発表現が生まれた
 り、教師はそれを助長し、さらにくふう誘導することによって、
 いかなる方面にも発展的可能性のあるあそびであると思ひます。

(倉敷市御国幼稚園)